

I 貴学について

【記入方法について】

1. 各設問の回答形式が番号の場合、該当する番号に○を記してください
2. 各設問の回答形式が表の場合、該当する項目内に○を記してください
3. 各設問の回答形式が記載形式の場合、()内にお考えやご意見を自由にご記入下さい

問1 貴学の設置形態について

1. 国立大学
2. 公立大学
3. 私立大学

問2 大学院設置の有無について

1. 有 (博士・修士)
2. 有 (修士)
3. 無

問3 あなたの役割について

1. 管理者
2. 看護教育科目責任者
3. 国家試験対策担当者
4. その他 ()

問4 あなたの専門領域について

1. 専門基礎科目
2. 基礎看護学
3. 成人看護学
4. 老人看護学
5. 小児看護学
6. 母性看護学
7. 精神看護学
8. 在宅看護学
9. 地域看護学
10. 助産学
11. その他 ()

問5 貴学で得られる国家試験受験資格について (該当するものすべて)

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師

II 保健師助産師看護師国家試験対策について

問1 保健師助産師看護師国家試験に関心がありますか

1. はい
2. いいえ

問2 貴学は特別な保健師助産師看護師国家試験の対策を行っていますか

1. はい → 問3へ
2. いいえ → 問4へ

問3 行っている対策はどれですか

1. 特別対策セミナー
2. 個別指導
3. 模擬試験

その他に行っている対策があれば具体的な内容をお書きください

問4 特別な対策はしていないが、学生が主体で業者の模擬試験を受けている

1. はい
2. いいえ

III 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の活用状況について

問1 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」をご存じですか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問2 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の活用は教員個人の判断に任されている

1. はい
2. いいえ

問3 積極的に「保健師助産師看護師国家試験出題基準」を活用していますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問4 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の内容に基づいて領域間、教員間で連絡・調整することがありますか
 1. はい 2. いいえ 3. その他 ()

問5 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」をどの程度「授業・演習」へ活用していますか
 (該当しない課程には斜線を引いてください)

	保健師	助産師	看護師
1. 必ず活用する			
2. 時々活用する			
3. ほとんど活用しない			
4. 活用しない			
5. その他 ()			

問6 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」をどの程度「実習」へ活用していますか
 (該当しない課程には斜線を引いてください)

	保健師	助産師	看護師
1. 必ず活用する			
2. 時々活用する			
3. ほとんど活用しない			
4. 活用しない			
5. その他 ()			

問7 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」を学生に「自己学習の指標」として活用するように指導して
 いますか
 1. はい 2. いいえ

↓
 付問1) どの程度学生の国家試験の学習へ活用するよう指導していますか
 (該当しない課程には斜線を引いてください)

	保健師	助産師	看護師
1. 必ず活用するよう指導			
2. 参考にするよう指導			
3. 紹介する程度の指導			
4. とらわれず学習するよう指導			
5. その他 ()			

IV 「保健師助産師看護師国家試験出題基準」の出題項目について

問1 「国家試験出題基準」は保健師・助産師・看護師として必要な「知識」を評価できる項目だと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. その他 ()

問2 「国家試験出題基準」は保健師・助産師・看護師として必要な「看護実践力(技術)」を評価できる項目だと思いますか
 1. はい 2. いいえ 3. その他 ()

- 問2 看護実践力の評価は各大学の看護専門科目の評価で行われていると思いますか
1. はい
 2. いいえ
 3. その他 ()

- 問3 看護実践力の評価をする時に、最も重要であると思うのはどれですか
1. 知識
 2. 状況把握力
 3. 状況判断力
 4. 看護技術力
 5. その他 ()

- 問4 看護実践力の評価のために看護技術に関する出題は重要と思いますか
1. はい
 2. いいえ
 3. その他 ()

VII 客観的臨床能力試験 (OSCE) の取り組みの必要性について

医師国家試験の場合は、各大学の自由意志で参加する OSCE 試験が導入されようとしています。看護分野でも看護実践力を評価する方法の一つとして注目されています。そこで、客観的臨床能力試験の導入に関する質問にお答えください

OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験)とは、学習者の基本的な臨床技能および態度・習慣を客観的に評価するために開発された評価方法ということの意味します

- 問1 OSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験、以下、OSCE と略す) という言葉を知っていますか
1. はい
 2. いいえ

- 問2 各大学医学部で行われている OSCE の内容を知っていますか
1. 知っている
 2. 知らない
 3. その他 ()

- 問3 看護分野においても卒業時まで医学部で導入されている OSCE などの取り組みが必要と考えますか
1. はい
 2. いいえ
 3. その他 ()

- 問4 看護師国家試験に看護実践力を評価するための方法の一つとして、OSCE に類似した実技試験の導入が必要であると思いますか
1. はい
 2. いいえ → 付問1へ

付問1) その理由についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 試験の客観性・公正性の保持が困難である
2. 評価者の差による不公正という困難さがある
3. 適切に評価できる評価者の確保が困難である
4. SP (simulated patient) の確保が困難である
5. その他 ()

Ⅶ 看護実践力として必要な卒業時の技術到達レベルと出題範囲について

問1 卒業時の達成度は「レベルⅠ：単独で実施できる Ⅱ：指導のもとで実施できる Ⅲ：学内演習で実施できる Ⅳ：知識としてわかる」で設定されています。現在、設定されている卒業時の到達レベルを網掛けで示しています。あなたが求める卒業時の到達レベルを○印で示してください。また、国家試験において出題が必要と考える技術項目を該当する項目の枠内に○印をつけてください。さらに、必須問題として出題が望ましい技術項目にも○印をつけてください。

技術の種類		卒業時の到達度	出題が必要と考える項目	必須問題として出題が望ましいと考える項目
1	環境調整技術	患者にとって快適な病床環境を作ることができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		基本的なベッドメイキングができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者のリネン交換ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
2	食事の援助技術	患者の状態に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		経管栄養法を受けている患者の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の栄養状態をアセスメントできる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者に対して、経鼻胃カテーテルからの流動食の注入ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		電解質データの基準値からの逸脱がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者の食生活上の改善点がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
3	排泄援助技術	自然な排便を促すための援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		自然な排尿を促すための援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者のおむつ交換ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、失禁をしている患者のケアができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、ルート確認、感染予防の管理ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		モデル人形にグリセリン浣腸ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
4	活動・休息援助技術	患者を車椅子で移送できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者の歩行・移動介助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		廃用性症候群のリスクをアセスメントできる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の体位変換ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、廃用性症候群予防のための自動・他動運動ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、目的に応じた安静保持の援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、体動制限による苦痛を緩和できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、患者のストレッチャー移送ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、関節可動域訓練ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		廃用性症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
5	清潔・衣生活援助技術	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者の状態に合わせた足浴・手浴ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		清拭援助を通して、患者の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		洗髪援助を通して、患者の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		口腔ケアを通して、患者の観察ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		患者が身だしなみを整えるための援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		輸液ライン等が入っていない臥床患者の寝衣交換ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、入浴の介助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	
		看護師・教員の指導のもとで、陰部の清潔保持の援助ができる	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	

技術の種類		卒業時の到達度	出題が必要と考える項目	必須問題として出題が望ましいと考える項目
5	清潔・衣生活援助技術	看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の清拭ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、臥床患者の洗髪ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、意識障害のない患者の口腔ケアができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、沐浴が実施できる	I II III IV	
6	呼吸循環を整える技術	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I II III IV	
		患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I II III IV	
		患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I II III IV	
		末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、酸素吸入療法が実施できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、気管内加湿ができる	I II III IV	
		モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	I II III IV	
		モデル人形で気管内吸引ができる	I II III IV	
		モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	I II III IV	
		学内演習で酸素ポンペの操作ができる	I II III IV	
		気管内吸引時の観察点が変わる	I II III IV	
		人工呼吸器装着中の患者の観察点が変わる	I II III IV	
7	褥瘡管理技術	患者の褥瘡発生の危険性をアセスメントできる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが計画できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、褥瘡予防のためのケアが実施できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の創傷の観察ができる	I II III IV	
		学生間で基本的な包帯法が実施できる	I II III IV	
		学内演習で創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	I II III IV	
		創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	I II III IV	
		循環機能のアセスメントの視点がわかる	I II III IV	
8	与薬の技術	看護師・教員の指導のもとで、経口薬(パッカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、直腸内与薬の投与前後の観察ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、点滴静脈内注射を受けている患者の観察点が変わる	I II III IV	
		モデル人形に直腸内与薬が実施できる	I II III IV	
		学内演習で点滴静脈内注射の輸液管理ができる	I II III IV	
		モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	I II III IV	
		モデル人形または学生間で筋肉内注射が実施できる	I II III IV	
		モデル人形に点滴静脈内注射ができる	I II III IV	
		学内演習で輸液ポンプの基本的な操作ができる	I II III IV	
		経口薬の種類と服用方法がわかる	I II III IV	
		経皮・外用薬の与薬方法がわかる	I II III IV	
		中心静脈内栄養を受けている患者の観察点が変わる	I II III IV	
		皮下注射後の観察点が変わる	I II III IV	
		皮下注射後の観察点が変わる	I II III IV	
		筋肉内注射後の観察点が変わる	I II III IV	
		静脈注射の実施方法がわかる	I II III IV	
		薬理作用をふまえて静脈内注射の危険性がわかる	I II III IV	
		静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	I II III IV	
		抗生物質を投与されている患者の観察点が変わる	I II III IV	
		インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	I II III IV	
		インシュリン製剤を投与されている患者の観察点が変わる	I II III IV	
麻薬を投与されている患者の観察点が変わる	I II III IV			
薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	I II III IV			
輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点が変わる	I II III IV			

技術の種類		卒業時の到達度	出題が必要と考える項目	必須問題として出題が望ましいと考える項目
9	救命救急処置技術	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の意識状態を観察できる	I II III IV	
		モデル人形で気管確保が正しくできる	I II III IV	
		モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	I II III IV	
		モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	I II III IV	
		除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	I II III IV	
		意識レベルの把握方法がわかる	I II III IV	
		止血法の原理がわかる	I II III IV	
10	症状・生体機能管理技術	バイタルサインが正確に測定できる	I II III IV	
		正確に身体計測ができる	I II III IV	
		患者の一般状態の変化に気付くことができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、系統的な症状の観察ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメント	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、簡易血糖測定ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、正確な検査が行えるための患者の準備ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、検査の介助ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、検査後の安静保持の援助ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、検査前、中、後の観察ができる	I II III IV	
		モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	I II III IV	
		血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	I II III IV	
		身体侵襲を伴う検査の目的・方法、検査が生体に及ぼす影響がわかる	I II III IV	
11	感染予防の技術	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、必要な防護用具(手袋・ゴーグル・ガウン等)の装着ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、使用した器具の感染防止の取り扱いができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、感染性廃棄物の取り扱いができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、無菌操作が確実にできる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、針刺し事故防止の対策が実施できる	I II III IV	
		針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	I II III IV	
12	安全管理の技術	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I II III IV	
		災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる	I II III IV	
		患者を誤認しないための防止策を実施できる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、放射線暴露の防止のための行動がとれる	I II III IV	
		学内演習で誤薬防止の手順に沿った与薬ができる	I II III IV	
		人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	I II III IV	
13	安楽確保の技術	看護師・教員の指導のもとで、患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の安楽を促進するためのケアができる	I II III IV	
		看護師・教員の指導のもとで、患者の精神的安寧を保つための工夫を計画できる	I II III IV	

Ⅷ 看護実践力を評価するための出題方法について

問1 多肢選択式看護師国家試験によって看護実践力を評価することは可能だと思いますか

1. はい → 問2へ
2. 出題形式を工夫すれば可能になる → 問2へ
3. いいえ
4. その他 ()

問2 看護実践力評価のために、代表的な看護の現象を抽出し、体系化することが重要であるとおもいますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問3 多肢選択式看護師国家試験の看護実践力を評価する場合、出題形式として状況設定に基づく必要があると思いますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問4 看護実践力を問う出題の題材に図やイラストが有効であると思いますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問5 看護実践力を問う出題の題材に写真が有効であると思いますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問6 看護実践力を問う出題のためのプロジェクトチームによる問題開発が必要であると思いますか

1. はい
2. いいえ
3. その他 ()

問7 看護実践力を問う問題作成方法について、ご提案があれば具体的な内容をお書きください

以上です。ご協力ありがとうございました。

【教員用】

保健師国家試験模擬試験 アンケート

全国保健師教育機関協議会国家試験対策委員会

今後の国家試験問題検討の参考にしたいので、アンケートにご協力下さい。

所属： 大学 短期大学 専門学校（1年課程） 専門学校（4年課程）

1. 今回の保健師国家試験模擬試験に関し、保健師の国家試験問題としてふさわしくない問題を選び、○印を記入して下さい。また、その理由を次の中から選び記入して下さい。

- ふさわしくない理由： ① 看護学の知識がなくても解答できる
 ② 看護師の知識があれば解答できる
 ③ 保健師の知識が必要だが非常に簡単すぎる
 ④ その他（ ）

※ふさわしい問題とは、保健師の専門性を問う問題のことです。

問題	ふさわしくない問題に○印	ふさわしくない理由	問題	ふさわしくない問題に○印	ふさわしくない理由
問 1			問 14		
問 2			問 15		
問 3			問 16		
問 4			問 17		
問 5			問 18		
問 6			問 19		
問 7			問 20		
問 8			問 21		
問 9			問 22		
問 10			問 23		
問 11			問 24		
問 12			問 25		
問 13					

2. 次の問 1～10 について、太線で囲んだ上下の二つの問題を比較し、より保健師の専門性を問う問題としてふさわしいほうに、○印を記入してください。

問 1		問 2		問 3		問 4		問 5	
問 6		問 7		問 8		問 9		問 10	

ご協力ありがとうございました。

【学生用】

保健師国家試験模擬試験 アンケート

全国保健師教育機関協議会国家試験対策委員会

今後の国家試験問題検討の参考にしたいので、アンケートにご協力下さい。

在学している学校： 大学 短期大学 専門学校（1年課程） 専門学校（4年課程）

1. 今回の保健師国家試験模擬試験に関し、保健師の国家試験問題としてふさわしい問題を選び、あてはまるものすべてに○印を記入して下さい。（ふさわしい問題とは、保健師の専門性を問う問題のことです。）

問1		問2		問3		問4		問5	
問6		問7		問8		問9		問10	
問11		問12		問13		問14		問15	
問16		問17		問18		問19		問20	
問21		問22		問23		問24		問25	

2. 次の問1～10について、太線で囲んだ上下の二つの問題を比較し、より保健師の専門性を問う問題としてふさわしいほうに、○印を記入してください。

問1		問2		問3		問4		問5	
問6		問7		問8		問9		問10	

ご協力ありがとうございました。

平成21年度スキルアップ研修会アンケート結果(2009.8)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計	
1. 年齢	2	1	12	13	3	31	
2. 教育経験	～3年	4～5年	6～9年	10～14年	15～19年	20年以上	合計
	10	4	8	3	2	4	31
3. 講演Ⅰについて	よく理解	概ね理解	すこし難	難しい	合計		
	9	20	2	0	31		
4. 講演Ⅱについて	よく理解	概ね理解	すこし難	難しい	合計		
	14	15	2		31		
5. グループ討議	参考になる	普通	参考にならない	合計			
	29	2		31			

アンケート記述部分

- ・講演Ⅰについて <良かった点>
 内容が自らの教育 自分の出題の参考になる
 の振り返りになった 国試の視点から教育内容を考えることができた
 授業内容に直結する
 授業の指針となる
 国家試験という制度を保健師教育に役立てる
 国試だけでなく担当科目のつくり方、教育の参考になった
 単なる国試の視点だけでなく教育目標・方法・内容・評価という連続性でとらえた点

 わかりやすかった 基本的な考え方が押さえられてよい
 具体的な例を示されわかりやすかった
 昨年に続きすこし理解度が上がった
 保健師国試問題を例にしてわかりやすかった
 昨年と2回講義を聞くことで良く理解できた
 MCQ国試に用いられ構造的に問題作成され評価に通じていることがわかった。
 何が学んで欲しい大切なことか自分で実際作成するのが容易でないことがわかった
- すこし難しかった すこし話が早かった
 タキソミーをあげる問題を作成すること
 計算式のスライドが書き取れなかった
 出題の難しさを感じた
- ・演習(グループ討議全体)について
 学生の立場を考える機会となった
 改めて深く分析することで考えることに繋がった
 他人のものに修正を入れるのは本当に楽で自分がかんがえるのたいへんである
 協議会で国試対策に真剣にとり組む必要があることを思った
 イーベル法がわかった
 スキルアップ、ブラッシュアップと毎年良い刺激です
- ・本日の研修から生かしたいこと
 問題作成してみます
 科目の試験作成に活用します
 国試問題プール制にトライしてみます
 試験問題作成上のヒントが得られました
 通常科目の見直し、問題を振り返ることで国試問題を作りたい
 保健師の専門性を学生に教育する際の良い機会になった
 まずは自分の科目試験です
 入試にも活用し担当科目内容を明確にするため取り組みたい
 学生への教育指導のヒントになりました
 学内試験に生かすできれば応募してみたい
 具体的に対応することを考えさせてもらった
 実際に今回の留意点をチェックしながら問題作成してみたい
 講義が役立った
 種々の意見が聞かれグループワークが役立った
 学生に単なる知識だけを問いかけているのではないかと自己点検したい
 設問の難しさを改めて痛感した
 実際に検討することの大切なことを実感しました
 授業のあり方、自分自身の身の振り方に直接関わってくる重い研修でした

職場報告をして考える教育について検討していきます
常日頃、出題基準や目標を意識し(タキソノミーレベル)試験の作り方にも生かしたい
これからの教育方法、内容を定期試験と国試を比較して評価してみたい
何が焦点なのか今ひとつわからなかった

・今回の研修の企画内容・講師・研修方法について

毎年続けて欲しい
とても良い企画でした
成長するトップス先生、大学教育に必要な授業構築を教えてください
講演時間を守って欲しい(聴講生にも限度があります)
国試のみにテーマを絞って欲しい
毎年研修を受けることでスキルアップになります
スキルアップ研修に講演2つは違和感があった
ひとつに絞れば意欲的に参加できる
講師の時間超過は伝えるべき(帰路の時間制限がある)

平成21年度スキルアップ研修会アンケート結果(2009.12)

		30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	合計	
1. 年齢		4	5	9	1	19	
2. 教育経験	～3年	4～5年	6～9年	10～14年	15～19年	20年以上	合計
	4	1	7	2		5	19
3. 参加回数	1回目	2回目	3回目				
4. 講演	10 よく理解	6 概ね理解	3 すこし難				
	11	8			19		
5. グループワーク	良かった	どちらとも	参考にならなかった		合計		
	19				19		
6. グループワーク発表	良かった	どちらとも	参考にならなかった		合計		
	19				19		

アンケート記述部分

講演について

具体的であった
イーベル法がわかりやすかった
国試の作成についてはじめて聞いたがわかりやすかった

グループワークについて

参加型で行なわれた
試験問題作成の難しさを実感できた
時間が短かった
クリテイクは作成の基本です

グループワーク全体発表について

講評がとてもよかった。フィードバックとなりました。
同グループ(問題作成)があり考え方が深まった
同グループ(問題作成)があるほうがより学べる
いろいろな意見が参考になりました
各問題の解釈を保健師の専門性と照らしあわせて考えることができた

研修を今後に生かそうとする点

問題を作らなければと思いました
自分の担当科目な内容・方法の見直しに役立てようと思う
問題作成には目標が大切ということで教育目標をより正確にしたいと思った
問題作成がいかに難しいかを痛感した
国試問題作成の認知領域の分類について活用していきたい

今後の研修について希望すること

同じ形態・内容でもよいと思う
教育体制について(大学・修士・統合教育)について

